

FIIT講演



メアリー・テイビス
大学院長



パメラ・エルスワー
スGFM学科長

グローバル人材育成へプログラム充実

複雑化するファッション産業

米FIIT（ニューヨーク州立ファッション工科大学）大学院のメアリー・テイビス大学院長と同校のグローバル・ファッション・マネジメント・コース（GFM）学科長のパメラ・エルスワース准教授はこのほど日本で講演し、FIITとGFMの役割などについて語った。

△テイビス大学院長「10年に発表された『米國大学院カウンスル報告』は大学院教育の必要性について、リーダーシップのための知識と技術を提供するもので、世界各國が大学院教育に投資していると指摘。今後10年で新たに生まれる職種の多くはプロフェッショナルとサービスマン関連であり、修士号、博士号保有者の

ニーズが高まる」とした。修士号は知的なものから起業家認定書的なものに進化した。

そうした中で、FIITはアパレルビジネスの中心地であるニューヨークにあり、同時に世界中とつながっていることで、大きな存在感を誇っている。

△エルスワース准教授「FIITの中で、理論や知識に加

え、実学でアパレル業界のグローバルリーダーの育成をめざすGFMは、中間層をエグゼクティブに育成することが目標の一つだ。コースは18カ月で、期間中に3カ国・地域での集中セミナーを実施するほか、文化や国際ビジネス、政治や国際貿易、マーケティングから各種の実践的な領域まで幅広いカリキュラムを備えている。いろいろな国の学生が一緒に学んでグローバルに学ぶ。海外に学生を連れて行き一緒に学ぶ例は他にない。

また、今ほどアパレル業界が複雑化している時代はない。MD、デザインなど一縦型「教育が長く続いたが、ビジネス、財務、IT（情報技術）、金融、さらに教養、政治、社会、文化なども身につけなければならぬ。そのため教授陣の確保にも力を入れ、複雑なカリキュラムを組んでいる。

大切なのは教室内にたくさん動きがあることだ。学生と言っても社会人であり、多様性を持ったネットワークができる。

クラスの人数は個々に対応した教育をするのにちょうどよい規模だ。入学した学生の中で中途退学が少ないのも特徴だ。